東北工業大学の“今”を伝える広報誌

工大広報

No.267
Autumn 2012
2012年11月20日発行
（年4回発行）

第37回
工大祭「LINK」

学生の自主活動
「足湯ボランティア」活動

表紙写真：北海道工業大学との定期戦
バスケットボールでの熱戦

TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY
創造から統合へ―仙台からの発進
東北工業大学

第37回
工大祭「LINK」

日時：2012.10.20（土）・21（日）10:00～15:00
会場：八木山キャンパス

今年の工大祭のテーマは「ＬＩＮＫ」。「来場されるお客様、運営する学生、大学祭にかかわるすべての人たちがつながる大学祭にしたい」。こんな思いを胸に学生が企画・運営した今年の工大祭は、多くの工大生が関わり、一人ひとりの良い思い出として残るお祭りになりました。

第37回工大祭『LINK』を振り返って

伊藤（いとう） 美由紀（みゆき）
学生部次長
安全安心生活デザイン学科 准教授

第37回工大祭が10月20日（土）、21日（日）に行われました。

今年度テーマ『LINK』は、震災からの復興には人と人、大学と地域など、「つながる」ことの大切さを伝えようと設定しました。

長町キャンパス4号館が建設中のため八木山キャンパスのみの開催となり、工学部とライフデザイン学部の学生が集結した賑やかな工大祭になりました。

また、理事長講演会、著者講演・懇談会など学術的な催しもあり、多くの方に来場いただきました。

実行委員は昨年の反省を活かし、ステージ企画内容、代表学生との連携、広報的なデザインを専門に学ぶ学生に依頼するなど皆で協力し、苦労を重ね、多くの改善に努力を注ぎました。それでも反省点はつきません。後輩たちが、来年につなげてほしいと願っています。

工大祭“LINK”を終えて

長谷川（はせがわ） 翔平（しょうへい）
大学祭実行委員長
知能エレクトロニクス学科　3年

大学祭実行委員会は主に３年生が中心となり、企画・運営を行ってきました。何もかもが、初めてのことばかりで多くの方にご迷惑をおかけしました。

しかし、一人ひとりが抱く思いは「LINK」というテーマのもと、メンバー全員団結し、大学祭に関わる全ての人に楽しんでもらえるよう、努力いたしました。

１、２年生には、この活動を通して、普段の生活では得られない「なにか」を学んでもらえれば嬉しい限りです。

私達はこのメンバーに出逢えたこと、この「縁」を大切にしていきたいと思います。

最後になりますが、今年度の大学祭にご支援・ご協力いただいた皆さま、さらにご来場いただいたお客様へ、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

工大祭企画

コンサート企画

千葉（ちば） 真（まこと）
コンサート企画長
安全安心生活デザイン学科 3年

コンサートは主にゲストライブやテントの借用など、大学祭のメインとなる仕事が多い部署です。3年生が2人だけで不安もありましたが、1,2年生が積極的に行動をしてくれたおかげで無事終えることができました。1,2年生の今回の働きを見て「来年は任せられる」と思いました。私たちが卒業した今、後輩たちの今後の飛躍を期待しています。

ステージ企画

安藤（あんどう） 大樹（ひろき）
ステージ企画長
経営コミュニケーション学科 3年

今年のステージは、例年よりも観客を増やすことを目標にしてやってきました。そのためには、子供から大人まで気軽に楽しめるような企画を用意したいと工夫しました。昨年も公演していただいた吹奏楽部、ダンス部、チアリーディング部に加え、今年から新たにパフォーマーの方をお呼びし、大いに会場を盛り上げていただきました。

スポーツ企画

菅原（すがわら） 啓太（けいた）
スポーツ企画長
安全安心生活デザイン学科 3年

今回、私は初めてスポーツ大会に携わりました。分からないことだらけでしたが、このスポーツ大会を通して種目別の勝ち負けだけではなく、友達の輪やさまざまな人との関わりの中で得られたことも多く、私自身も成長させられ、とてもいい経験になりました。これを後輩たちにも伝えていけたらと思います。

パンフレット企画

佐藤（さとう） 慶臣（よしとみ）
パンフレット企画長
環境情報工学科 3年

第37回工大祭のパンフレット企画は、パンフレットとポスターの作成でした。当日は多くのお客様にパンフレットをお渡しすることができましたが、ポスターは学外の掲示が少なかったので、来年は駅や街中の目立つところに掲示するなど掲示場所を広げ、広報活動により力を入れて欲しいと感じました。

一般企画

袰川（いやがわ） 俊輝（としき）
一般企画長
建築学科 3年

一般企画とは屋台、展示に参加する人達をサポートする部署です。私が一般企画を通して学んだことは、外部の人とのやりとりがいかに難しいかということです。それはメールのやりとりや電話、説明会などさまざまですが、とてもやりがいがある内容の仕事でした。

祭飾企画

佐野（さの） 拓豊（たくと）
祭飾企画長
情報通信工学科 3年

今年の大学祭では、校門に設置する門看板のデザインを長町キャンパスのクリエイティブデザイン学科の学生に依頼し、より専門的なデザインにしました。テーマである「LINK」を看板で表すようなデザインを考え、LINK(繋がり)を意識した看板を作成しました。また、来場していただいた方や学生が見やすく、分かりやすい看板を意識しました。

幼稚園企画

大場（おおば） 愛（めぐみ）
幼稚園企画長
安全安心生活デザイン学科 3年

幼稚園企画では「キラ☆キラ キッズ水族館」というテーマで、八木山周辺の幼稚園に参加していただき、企画を作り上げていきました。企画内容は巨大迷路や釣り堀、ボーリングやおかし屋さん、さらに園児の皆さんの作品を展示しました。両日とも園児だけでなく、保護者の方にも楽しんでいただけたと思います。

総務・野外企画

杉原（すぎはら） 悠悟（ゆうご）
総務・野外企画長
建築学科 2年

第37回東北工業大学大学祭における総務企画は、フリーマーケットとMake Up Boxです。フリーマーケットでは当日、それを目当てに訪れる一般の方や学生もおり、賑わいました。Make Up Boxでは、一般の方よりも学生の参加者が多かったため、来年はパンフレットなどでの広報面により力を入れたいと考えています。

工学部 知能エレクトロニクス学科

今回の大学祭では、知能エレクトロニクス学科は9号館教室と3号館を会場とする学科企画と、屋台を出店しました。屋台は、内田研からフランクフルト、ソーセージと水餃子、加納研からはフライドポテトと唐揚げの屋台を出店しました。学科企画は「体感！エレクトロニクス！」と題して、研究室および研究設備の公開や、金のしおり製作と電子工作の体験コーナーを設けました。学祭学科企画の実施と屋台を出店するにあたり、多数の学生および教員の協力に厚く感謝いたします。

工学部 情報通信工学科

情報通信工学科では、4号館のITシステムラボラトリの公開と体験企画を行いました。ITシステムラボラトリでは、インターネット、セキュリティ、光通信といった技術の研究をしていますが、大学祭では研究に使用している機器を展示し、どのような研究に使うのかなどを説明しました。

また、「インターネットラジコン」のデモ、インターネットで用いるケーブルの製作作業、ハンダ付けで作るLED自動点滅回路作成などのIT関連技術の体験コーナーでは、参加者がにぎやかに作業に取り組み好評でした。

工学部 建築学科

昨年の震災では、人と人のつながりを改めて考えさせられました。今回のcolorsワークショップでは「ツナガルイト」とのテーマで、街中を行き交う人たちがつながるきっかけとなる場の提案を行いました。建築家の方を講師としてお招きし、他大学の学生も交えて、仙台を舞台とした新しい人のつながりの可能性を探る試みです。フィールドワークと全体でのディスカッションを行いながら、7チームに分かれてそれぞれの案を形にしていきました。仙台の街を盛り上げていくことにもつながるイベントになったと思います。

工学部 都市マネジメント学科

大学祭の学科企画は、本学科の卒業研究生が何をどのように研究しているかを一般の方に分かっていただく機会にしようと、計画しました。10の研究室が、それぞれの分野での研究内容をパネルにし、915教室に展示、説明しました。延べ235人が来場、説明の4年生の健闘のおかげで、声が途切れることがない賑やかな2日間となりました。

学科の現在の研究内容がわかる貴重な展示なので、学科の1年生はこれを学習することとしました。ほぼ全員が参加し、上級生と下級生の良いコミュニケーションの場ともなりました。

工学部 環境エネルギー学科

セグウェイとソロホイールの試乗会を1号館脇で行いました。セグウェイは、小さなバッテリーのわずかなエネルギーで動き、環境に優しく、災害に強いパーソナルトランスポーターです。当日は天候にも恵まれ、ロープを張って作った曲がり角の多い難関コースを学生サポーターの指導を受け、たくさんの来場者が、すいすいと乗りこなしていました。今回の試乗会には360名ほどの来場者がありました。試乗会は来年度以降もオープンキャンパスなどで実施する予定です。ぜひ一度、試乗してみてください。

ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科

今年の大学祭にCD学科は、デーマ「LINK」にあわせ一人ひとりが楽しく、多くの学生の交流が生まれることを願い、「工大真剣しゃべり場」と2つの屋台「Tシャツ・エコバック・雑貨販売」「藍染・草木染のワークショップ」を行いました。

広告会社に勤める学科O.G.と学生2名とのトークイベント企画では、大学の時にやるべきこと、仕事と恋愛など興味深い話題で会場は盛り上がり、参加高校生から将来の希望を聞くなど、一体感のあるイベントとなりました。

屋台は強風の中、用意したTシャツや手ぬぐいをほぼ完売。準備は大変でしたが、反省点を踏まえ来年もさらに楽しい企画になるようにと願います。

ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科

安全安心生活デザイン学科では恒例となっている「復興市」と「カレー屋」を出店しました。

「復興市」では、登米、南三陸、秋保から直送された農産物、加工食品、工芸品などを販売しました。また、今回のカレー屋では、「地産地消」をテーマとして農産物出品3地域など宮城県産の野菜や米を使用したドライカレーを販売しました。ドライカレーは2日目の昼には完売となり、大変好評でした。これらの活動を通じて、本学科の目標の一つである地域の活性化をアピールしました。これらの売上金の一部は、各地区への義援金とする予定です。

ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科

経営コミュニケーション学科では屋台「バラエティたこ焼」を出店しました。この屋台では、普通のたこ焼だけでなく、学生が考案したメニューの中から、美味しく、そして材料費のかからないものを選び、6個250円の価格で販売しました。調理担当の学生は、はじめなかなかうまく焼けず四苦八苦していましたが、2日目には手際よく焼けるようになったようです。

また、販売担当の学生の元気な接客のおかげで、屋台は常に活気のある状態でした。自分達で企画したメニューを販売するといった貴重な経験をすることができ、参加した学生は十分満足したと思います。

大学祭実行委員会主催 岩崎俊一理事長講演会「インターネット時代を支えるハードディスク」

伊藤（いとう） 美由紀（みゆき）
学生部次長
安全安心生活デザイン学科 准教授

「インターネット時代を支えるハードディスク」のテーマで、「垂直磁気記録方式」の発明者でもある岩崎 俊一先生（東北工業大学理事長・2009年日本国際賞受賞）の講演会が、大学祭実行委員会の主催で行われました。

情報化社会といわれる現代、その膨大な情報が保存・蓄積される「ハードディスク」に「垂直磁気記録方式」が使われていることを一般市民にもわかりやすく紹介していただきました。

先生の発明や発明から築かれた文明とそのプロセスのお話は、他分野や次世代へ大きな刺激となり、新たな文明につながっていくことは確かなところといえます。

好天に恵まれて、ミニオープンキャンパスを開催

大学祭での学科企画を、ミニオープンキャンパス“愉しむ、工大”として高校生に紹介しました。学科の特長が発揮された展示、学科屋台などで、大学および学科の魅力を伝えることができ、高校生にはテーマにふさわしい2日間になりました。また、入試対策なんでも相談コーナーも盛況で、担当者は休む間もなく対応に当たりました。大学祭が八木山キャンパスだけで行われ、ライフデザイン学部各学科の見学を希望する高校生を対象に、長町キャンパスツアーも実施しました。

後援会各支部の大学見学会（H24年度）

10月20日（土）・21日（日）の両日、第37回工大祭に合わせ後援会各支部による八木山キャンパスの大学見学会が開催されました。

初日は岩手・秋田・福島・新潟県各支部から91名、2日目は青森・山形県支部の47名、総勢138名のご父母や支部役員の皆さんが訪れました。

本学岩崎俊一理事長による「インターネット時代を支えるハードディスク」と題した講演会の聴講や子弟の日頃の勉学・生活を垣間見ることができる学科企画・サークル展示コーナーなどを見学、屋台の味を堪能し、十分に大学祭を楽しみ帰途につかれたと思います。

著者講演・懇談会

後夜祭

第27回 東北工業大学・北海道工業大学 総合定期戦報告

総合定期戦を終えて

坂本 譲（さかもと ゆずる）
学生部次長
共通教育センター人間科学部 准教授

北海道工業大学との第27回総合定期戦が8月21日、22日の2日間、北海道工大を会場に行われました。

本学からは学生、教職員あわせて約200名が参加し、8月20日午後に八木山キャンパスを出発、仙台港よりフェリーによる移動となりましたが、長時間の移動と定期戦開催日両日の30℃を超える記録的な猛暑にも負けず各競技で熱戦が繰り広げられました。

結果は5対8（2不戦敗）で北海道工業大学の総合優勝となり、本学にとっては残念な結果となりましたが、参加学生にはスポーツだけでなく運営面や学生間の交流などさまざまな経験を積んでもらえたものと思います。次回は東北工業大学での開催予定ですが、各クラブ協力のもとぜひ雪辱を期してもらいたいです。

絆が深まった定期戦

青柳 宏史（あおやぎ ひろし）
課外活動連合委員会 事務局 局長
知能エレクトロニクス学科 3年

今年は総合優勝はできませんでしたが、北海道工業大学の皆さんとの絆が深まったと思います。昨年、北海道工業大学の皆さんから義援金を贈られました。義援金は、学生が協力して本学のために集めてくれたものです。そのおかげで参加サークルは震災で破損した道具などの修復をすることができました。

来年は本学が定期戦の会場となります。そのときにこのご恩を少しでも返せればと思っています。末筆ですが定期戦が末長く続くことを祈ります。

総合定期戦を終えて

佐藤 友哉（さとう ともや）
学友会学部学生会 会長
安全安心生活デザイン学科 3年

昨年度は震災の影響があり、毎年恒例だった定期戦を行うことができませんでした。しかし、今年は無事開催され、各クラブが白熱した試合を繰り広げました。

当日は炎天下の中、体調を崩す学生も見られましたが、両校学生、教職員スタッフの支えにより、無事に定期戦を終えることができ、大変嬉しく思っています。

残念ながら今年も総合優勝することが出来ませんでした。来年こそは総合優勝のために各クラブが日々精進することを願っております。

対戦成績

種目	東北工業大学 対 北海道工業大学
サッカー	○ 3 － 2 ●
ラグビーフットボール	● 9 － 33 ○
ソフトテニス	○ 5 － 0 ●
硬式テニス	● 0 － 5 ○
バスケットボール	● 76 － 79 ○
剣道	○ 3 －（1引分） 3 ● 内容勝ち
柔道	● 2 －（1引分） 2 ○ 内容負け
アメリカンフットボール	● － ○ 不戦敗
バレーボール	● 0 － 3 ○
ハンドボール	○ 29 － 23 ●
弓道	○ 77 － 66 ●
バドミントン	● － ○ 不戦敗
卓球	● 0 － 5 ○
総合成績	5勝 － 8勝

第38回千葉工業大学硬式野球部定期戦

青木 瞳（あおき ひとみ）
硬式野球部マネージャー
安全安心生活デザイン学科2年

千葉工業大学との第38回硬式野球部定期戦が8月16日（木）、晴天の中、千葉工業大学を会場に行われました。本学は、2回に先発投手の立ち上がりを攻められ、序盤で3点を失う苦しい展開となりました。しかし、4回に伊藤寛伸（安全安心生活デザイン学科2年）のタイムリーツーベースで2点を返し、5回には、千葉諒（安全安心生活デザイン学科3年）のタイムリーヒットで同点に追いつき、試合は振出しに戻りました。その後、一進一退の攻防を繰り広げましたが、7回に千葉工大の猛攻で2点を加えられ、3－5で敗退しました。試合後に開かれた懇親会では、互いの秋季リーグ戦での活躍を誓い、親睦を深めました。

学生の自主活動 ⑭

人の心に寄り添う 仮設居住者「足湯ボランティア」活動

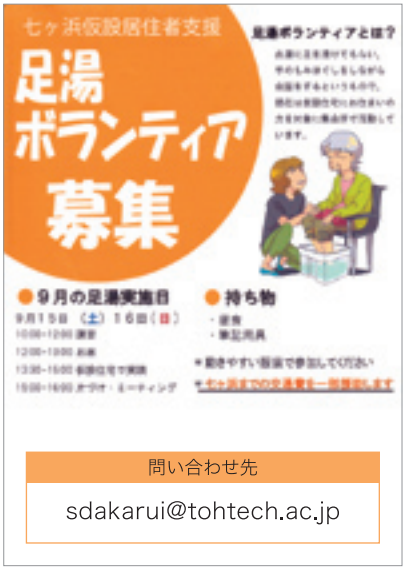
清水（しみず） 玲奈（れいな）
安全安心生活デザイン学科 2年

東日本大震災直後の昨年3月26日から、私は、地元である宮城県七ヶ浜町で足湯ボランティア活動を続けています。七ヶ浜町を拠点に震災支援を続ける名古屋市のNPO法人の現地スタッフとしての活動です。

足湯ボランティアとは、お湯に足を浸けてもらい、手のもみほぐしをしながら会話をするというもので、仮設住宅にお住まいの方を対象に集会所で行います。定期的に集会所に通って、今ではすっかり顔なじみになった方と世間話をしたり、和やかな雰囲気の中で活動しています。

町にあったがれきは多くのボランティアによってキレイに片づけられましたが、人々の心に刻まれた津波の恐怖は簡単には消えるものではありません。これからは人の心に寄り添い、一人でも多くの人が少しずつ前に歩んでいけるように支えるボランティアが必要だと思います。

つらい思いを抱え、長期的な支援を求めている方は、まだまだいらっしゃいます。工大生の皆さん、ぜひ積極的な参加をお願いします。



奨学生紹介

平成24年度 公益信託岩井久雄記念 宮城奨学育英基金奨学生

今年度の公益信託岩井久雄記念宮城奨学育英基金奨学生について、本学より学部・大学院あわせて4名の学生を推薦しました。選考の結果1名の学生が奨学生として採用されました。

■ クリエイティブデザイン学科 3年

岡本（おかもと） 侑子（ゆうこ）

好きな言葉：
追い続ける勇気があるなら、全ての夢は必ず実現できる。

平成24年度 郵政福祉教育振興基金 奨学生

今年度の郵政福祉教育振興基金奨学生が選考されました。

■ 知能エレクトロニクス学科 4年

平田（ひらた） 瞭（りょう）

好きな言葉：
前例がないなら、それを作ってしまえばいい。
新しい手法を見つけて、新たな道を切り拓けばいい。

■ 建築学科 3年

今野（こんの） 勝成（かつなり）

好きな言葉：
日進月歩

4年生・修士2年生・既卒者対象 学内合同企業説明会

金井 辰郎（かない たつろう）
就職部次長
経営コミュニケーション学科 教授

今年度の本学の就職内定率は、震災の影響のあった昨年度と比べかなり改善されていますが、それでもまだ初志を胸に就職活動を継続している学生がいます。

彼らの活動をさらに支援するため、11月2日（金）午後、八木山キャンパス４号館体育館を会場に本学就職部・キャリアサポート課主催の「４年生・修士２年生・既卒者対象学内合同企業説明会」を開催いたしました。

当日は気温の上がらない生憎の天候でしたが、県内外より60社もの企業が趣旨に賛同してご参加いただき、盛況の中、実施することができました。

参加した未内定学生130名は、終了時間ぎりぎりまで活発に企業ブースを回り、真剣に人事担当者の話を聞いていました。

就職部・キャリアサポート課は、厳しい就職環境の中、活動を続けている学生諸君を全力を尽くして支援します。最後まで決してあきらめず、自分は社会にどういう貢献ができるかという一段高い視点に立ち、気概を持って就職活動に当たってくれることを期待します。

インターンシップ

見えてきた将来の自分

実習先：
山形パナソニック株式会社

秋澤 由佳（あきざわ ゆか）
情報通信工学科 3年

５日間のインターンシップでは、LANケーブルの製作、ネットワーク構築、教育施設のサーバ保守などを体験しました。業務には、私が興味を持つ分野の授業で聞いたことがある言葉の作業がいくつかあり、一つひとつ行う中で、さらにその分野への理解を深めることができました。インターンシップに参加するまで、将来の自分を考えるのに悩んでいましたが、社員の皆さんの意見もいろいろと聞くことができ、とても参考になりました。今回の経験を生かして、今後の就職活動や学生生活をより充実させていきたいと思います。

考えを整理すること

実習先：
宮城県産業技術総合センター

廣田 奈津希（ひろた なつき）
クリエイティブデザイン学科 3年

インターンシップでは、細かくユーザーを設定した食品ブランド企画のデザイン研修や、化粧品のパッケージデザインをグループワークで行いました。

パッケージデザインでは実際にクライアントから依頼を受けて制作を行いました。クライアントの商品に対する思いを形にすることや、グループ内でのイメージ共有など、お互いの考えを整理することが難しかったです。

今回の体験でデザインを行うことはさまざまな人の考えや思いを整理して、形にすることだとあらためて実感しました。今後この体験を普段の実習にも役立てていきたいです。

スケジュール

日 程	行 事
5月21日・23日	説明会
6月1日	参加登録票提出
6月中旬～7月下旬	マッチング
7月25日	事前研修会
夏期休業期間	インターンシップ実施
10月11日	報告会
1月下旬	単位認定申請
3月下旬	単位取得

参加人数（平成24年度）

単位：人

工学部	2年生	3年生
知能エレクトロニクス学科	0	3
情報通信工学科	0	13
建築学科	1	8
都市マネジメント学科	0	6
環境エネルギー学科	0	2
合計	1	32

ライフデザイン学部	2年生	3年生	4年生
クリエイティブデザイン学科	0	26	0
安全安心生活デザイン学科	2	46	1
経営コミュニケーション学科	0	3	0
合計	2	75	1

大学院	
電子工学専攻	1
デザイン工学専攻	1
合計	2

大学院で学ぶ

大学院の特徴

本学大学院は平成4年に工学研究科が設置され、これまで約500人の修了生が東北地方を中心に活躍しています。本年度、ライフデザイン学研究科が開設され2研究科体制になりました。また、東日本大震災被災地の大学として災害技術国際センターを創設し、大学院における高度な教育と研究を国際的に推進すべく両研究科に所属する3専攻横断の『災害につよいまちづくりプロフェッショナルコース』を開設しました。本大学院は各専攻とも定員に比べ教員数が多く、授業、研究指導では少人数教育を行っています。また、経済的支援では、種々の奨学金制度、TA（授業補助制度）の他、本学独自のRA制度（研究補助者制度）があり、全ての大学院生に教員の研究補助者として活躍してもらい、毎月2万円を支給しています。これらの特徴により、高度の専門的知識・技術を身に付けるとともに、研究活動により自主的に課題を解決する力を身に付けることができます。

大学院を進路の選択肢に加えてみよう（新設ライフデザイン学研究科）

本年度（平成24年度）、東北工業大学大学院にライフデザイン学研究科が開設されました。今のところ、デザイン工学専攻1専攻だけですが、今後、ライフデザイン学部各学科の教育研究の充実により、複数の専攻に増えることが期待されています。

本研究の特徴は、インダストリアルデザインから生活デザイン科学まで、デザイン工学の中でも興味深い分野の最先端の内容が揃っていることです。専門的な知識と技術を教員の個別指導のもとで学修できるので、研究の面白さと奥深さを体験できることは間違いありません。加えて、来年度には、長町キャンパスに新4号館が完成し、大学院のための教育研究環境が一層充実します。

学部学生の皁さんには、ぜひ、この新しい大学院での学びを進路の選択肢の一つに加えてもらいたいと願っています。

工学研究科／電子工学専攻

博士前期課程／博士後期課程

電子工学はIT（情報技術）社会を支える基幹技術です。本専攻はシステム, センシング、デバイスの3分野からなり、材料からデバイス、医用を含む計測や制御、ロボットに代表される知能システムまでの、幅広い分野にわたる教育・研究が行われています。博士前期課程では高度なエンジニアを、後期課程では研究者を育成します。

- システム分野
- センシング分野
- デバイス分野

工学研究科／通信工学専攻

博士前期課程／博士後期課程

博士前期課程では講義と研修を通して情報通信に関する理論や技術を中心に学びます。専攻の各分野における技術者と研究者の養成を目的に、高度な技術力と総合力、および豊かな想像力をもった人材を育成しています。課程修了者は高度の専門知識をもち応用開発能力にすぐれていると、多くの企業から高い評価を得ています。

- 光通信工学分野
- 電磁波動工学分野
- 基礎情報工学分野
- 情報処理工学分野

工学研究科／建築学専攻

博士前期課程／博士後期課程

建築史・建築デザインから制振構造までの幅広い5研究分野を擁し、多岐に及ぶ建築の基礎を総合的に学び優れた居住空間の創造に寄与できる人材を育成します。前期課程では修士論文と修士設計を選べることが大きな特徴です。また1級建築士受験に向け1年の実務経験が取得可能など、資格取得へのサポートも充実しています。

- 建築史・意匠分野
- 建築・都市計画分野
- 建築環境工学分野
- 建築生産工学分野
- 制振構造学分野

工学研究科／土木工学専攻

博士前期課程／博士後期課程

本専攻には5研究分野があり、それぞれの分野においてわれわれの日常の暮らしを支える重要なテーマに関する教育・研究を行っています。院生は学部での教育に続く現代を反映した最新の科学・技術についての知識を学ぶとともに、主体的に研究に関わることによりさらに実力をつけることができます。

- 土木材料・構造工学分野
- 地盤工学分野
- 水圏の利用と防災分野
- 土木計画学分野
- 地域の水循環分野

工学研究科／環境情報工学専攻

博士前期課程／博士後期課程

本専攻は6分野からなり非常に幅広い領域について研究することができます。研究室においては、研究する過程において環境工学と情報工学を有機的に結びつけ、最先端の実験方法を修得していきます。環境問題解決のため、社会に貢献できる専門的な知識、技術を身につけたエンジニアの育成を目指しています。

- 環境応用化学分野
- 環境マネジメント分野
- 環境システム動態学分野
- 光/レーザ・リモートセンシング分野
- 水質環境分野
- エネルギー工学分野

ライフデザイン学研究科／デザイン工学専攻

博士前期課程／博士後期課程

デザイン工学は、モノと人間とのインタラクション、自然との共生、地域における産業経済問題の上に論じられる統合科学です。産業デザイン計画、環境造形計画、福祉デザイン計画、生活デザイン科学の4研究分野の探究を通して、東北という地域を背景に、高度な思考力と実践力、国際感覚を持つ創造的な人材を養成しています。

- 産業デザイン計画分野
- 環境造形計画分野
- 福祉デザイン計画分野
- 生活デザイン科学分野

大学院修了生の声

大学院から社会に出て

矢田（やだ） 裕之（ひろゆき）
東鉄工業株式会社 横浜支店建築部
工学研究科 建築学専攻 博士(前期)課程
沼野研究室 2012年修了

今、私は施工管理職として「安全・品質・工程・原価」を管理する立場で仕事をしています。現場では、日々さまざまな問題や課題が生じてきますが、それらに対して最善の解決方法を見つけ、最良の結果を得ることが常に求められています。

大学院での私の研究テーマは「景観」でした。興味のあることだからこそ強い探究心で問題提起を行い、根気強くその問題を解決していけたと自己評価しています。

問題提起力と問題解決力は施工管理職のみならず、社会の中で必要不可欠な能力でこれらの能力を身に付けるには大学院は最適な環境だったと思っています。

大学院生の声

大学院での生活

小嶋（こじま） 博明（ひろあき）
工学研究科 土木工学専攻
博士（前期）課程2年 高橋研究室

私の所属している研究室は、水圏の利用と防災が研究分野です。私は海岸利用者の意識調査と動向を研究をしています。学部と比較するとさまざまな学会への参加や、実験の指導、少人数でのより専門的な講義など、これまでとはまた違う新鮮な刺激があります。

大学院では、講義が少ないので、空いた時間で自習、実験、調査などを行い、自らの力で研究を進めていく、という形になると思います。2年間という限られた中で、自分で時間を上手く有効に活用し、スムーズに研究を進めるというのはなかなか難しいですが、学部以上に技術者としての視点、考え方を養い成長できる場所だと思います。

大学院の主な学費

単位：円

	本学卒業生	本学以外の入学者
入学金		250,000
授業料	900,000	900,000
設備負担費		260,000
学生諸費用分担金	20,000	20,000
学生災害傷害保険	1,750	1,750
合計	921,750	1,431,750

奨学金制度で学費負担を軽減

研究補助費 大学院生全員に支給 年額24万円

＋

特別奨学金 年額24万円

＋

公的・私的な各種奨学金制度

ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科 猿渡学 研究室

SARUWATARI Manabu Laboratory

猿渡研究室は写真や映像を用いた表現手法の研究をテーマにしています。これらの成果は、常に社会との接点を持つところから生まれると考えています。したがって、実社会と協同でワークを行うことを学生には心がけようと伝えています。現在、東日本大震災から気仙沼の商店街がどのように復興するのかをつぶさに記録しています。気仙沼では単に記録するだけではなく、地元商店街の皆さんやそこに集まるボランティアの方とのコミュニケーションを最も大切に、今後10年以上続くプロジェクトであってほしいと願っています。

被災地での撮影風景

彼らは本当に強いです

地元商店街の方との打ち合わせ

学生へのメッセージ

猿渡（さるわたり） 学（まなぶ）
経営コミュニケーション学科 准教授

東日本大震災以来、気仙沼復興商店街・紫市場でのさまざまなイベントを撮影・編集し、Facebookで公開しています。彼らの活動は、初年度は他の地域からのボランティア学生と比べられ、何をしにきたのかという目で見られることも多かったと感じています。しかし猿渡研究室の学生たちは自らの使命を忘れずによく耐えてくれました。二年目に入り、次第にボランティア学生が被災地を離れていくなかで、彼らK-PROJECTのメンバーは途絶えることなく気仙沼に関わり続けています。そのためか、彼らは商店街に受け入れられ、食事までごちそうになっています。「また来たのか～なんか食ってけぇ～」などと声をかけてくれるのです。記録した映像は成果物です。しかし、彼らの記録はやがては記憶となって人の中に生き続けることと思います。人に寄り添うことはとても難しく、そして辛いことも数多くあります。しかし、今後も猿渡研究室が果たすべき役割を果たして行ってほしいと思っています。

<K-PROJECT 「気仙沼市南町および南町海岸復興プロジェクト」>

学生の声

末永（すえなが） 康也（こうや）
経営コミュニケーション学科
猿渡研究室 4年

私のK-PROJECTでの役割は主に写真での記録撮影です。その中で子供たちや人の様子を写真に撮っていると皆さん笑顔が絶えなく、いつも笑っています。厳しい環境の中でもいつも笑顔を絶やさない街の皆さんを本当に尊敬しています。また、皆さんに喜んでもらえるようイベントを毎週企画している紫市場が周辺地域にとって大きい存在だと活動を通して感じることができました。今後とも復興に向けて必死に取り組んでいる紫市場を中心にメディア面での支援活動をしていきたいと思っております。

今野（こんの） 瑞樹（みずき）
経営コミュニケーション学科
猿渡研究室 4年

2012年3月11日、震災からちょうど1年が過ぎてK-PROJECTは私たちに引き継がれました。その後、仮設商店街がオープンしさまざまなイベントが行われ、いつも大きな盛り上がりをみせています。カメラのファインダー越しに映る人々はみんな力強い笑顔を見せています。彼らはまだまだ気を緩めたりはしません。5年後、10年後まで人々が気仙沼に限らず、被災地を支援してくれるように、そして自立できる街づくりができるまで、私たちの活動が人々の関心を寄せてくれる一助となればと思っています。

佐藤（さとう） 真実（まさみ）
経営コミュニケーション学科
猿渡研究室 4年

K-PROJECTで気仙沼市の南町復興商店街と関わっていく中で、人との繋がりの大切さを学びました。紫市場では、毎週イベントが行われていて、毎回さまざまなボランティアの方が楽しいイベントを行っています。商店街の方に話を聞かせていただくと多くの人から、「何よりイベントでできた“人との繋がり”を大切にしていきたい」という言葉を聞かせていただきました。私たちK-PROJECTもその繋がりの一つです。これからも南町復興商店街との“繋がり”を大切にしたいです。

大学の国際化について

内野 俊（うちの たかし）
知能エレクトロニクス学科 教授

秋入学をはじめとして、大学の国際化が話題に上る機会が増えました。サッカー、野球、相撲などのスポーツの世界では外国人選手が日本で活躍することは当たり前で、最近では日本人選手が海外で活躍する機会も増えています。

それでは、大学の国際化も必要でしょうか？大学には教育と研究という２つの役割があります。私の研究に限った話をすると、日本語で書かれた論文は量的にも質的にも英語で書かれた論文の氷山の一角に過ぎません。つまり、日本語で書かれた情報ばかりに頼っていると世界から取り残されてしまうのです。

研究室の仲間

ロンドンマラソンにて

卒論や大学院の意義

今野 弘（こんの ひろし）
都市マネジメント学科 教授

学生が最も大学らしさを感じるのは、本格的に卒論に取り組み始めた時期ではないかと思います。卒論では「問題点を自分で見つけ、その答えを探り、目標とする結論を得る」、それをやらされるのではなく自分で展開できるのです。卒論を完成させて自信を持ち、大きく成長した学生をたくさん見ています。卒論はそのテーマの内容ではなく、そのプロセスを体験することがその意義です。この学部の４年目を、大学院前期課程ではさらに２年間継続するのですから成長の度合いは学部生の３倍以上となります。これが大学院の大きな意義と考えています。

研修の合間の研究室内スポーツ大会そして祝賀会（1990.6）

ゼミの続きはコンパ会場で（1987.7）

つま先かかかとか

古川 哲哉（ふるかわ てつや）
クリエイティブデザイン学科 講師

デザイン事務所のスタッフとして働いていた時に、ボスがいつもつま先が見えるように靴箱に置いていました。ある日、事務所で打ち合わせがある時に、珍しくボスが準備をしていて、靴箱の靴の向きを全てつま先が見えるように並べ替えているのを見かけました。お客様から靴箱の中が見えるようなことはまずない状況でしたが、そのようにしていました。ボスは、質問をすると自分で考えろと叱責するような人だったので、その時は横目で見ながらミーティングルームを整えに行きましたが、普段かかとが見えるように靴を置いていた私は、恥ずかしい思いをしたのを覚えています。今思えば、これもデザイナーになるための勉強でした。

フリーになってから戴いた、ボスがデザインした本と手紙

デザインにかかる手間は、想像するよりも遥かに膨大です

「地域復興のための共同プロジェクト」中間発表

中間報告会

「地域復興のための共同プロジェクト」紹介

東日本大震災の発生から1年半を迎える9月10日(月)、第51回Tohtechサロン「東北工業大学が発信する『地域復興のための共同プロジェクト』の紹介ー東日本大震災からの復興に向けてー」を一番町ロビーで開催しました。会場ではプロジェクト代表者の講演と、引き続いて来場者も交えた情報交換会が行われました。

本年度は、継続・新規をあわせた12のプロジェクトが進行しています。そのうち、①建築学科復興支援室を核とした継続的地域再生支援プロジェクト(建築学科・薛松濤教授)、②応急仮設住宅でのコミュニティ形成活動を継承した安全で安心な復興公営住宅の計画提案(安全安心生活デザイン学科・小杉学准教授)、③宮城県内の教育機関に対する放射能測定支援プロジェクト(知能エレクトロニクス学科・小野寺敏幸助手)の3テーマについて、これまでの進捗状況が報告されました。

活動紹介パネル展示

講演終了後の情報交換会では、参加者が講演者を囲んで意見や疑問などを出し合い、活発な交流が行われました。講演や情報交換の内容を受け、現在は被災当時の「復旧」フェーズから、支援活動をきっかけに生まれた新しい技術を一つの力として、地域再生を実現させていく「復興」フェーズへ移行していることが感じられました。

これからは本格的な被災地の復興に向けて、多様化する地元住民のニーズに対応していくことが求められています。地域に根差す大学の使命として、産・官・民との連携を図りながら支援活動を継続的に展開していきます。

「イノベーションジャパン2012」に出展

新技術創造研究センター

イノベーションジャパン2012　「つみきめっと」展示ブース

ライフデザイン学部クリエイティブデザイン学科の梅田 弘樹准教授の「つみきめっと」が、9月27日(木)28日(金)の2日間、東京国際フォーラム(東京・有楽町)で開催された「イノベーション・ジャパン2012–大学見本市」に出展されました。

この催しは、大学の技術シーズと産業界の技術ニーズを結びつける国内最大のマッチングイベントで、梅田准教授の「つみきめっと」が展示物に採択されたものです。

「つみきめっと」は、日常は柔らかい素材の積み木として遊具となり、災害など非常時には、裏返して頭部を保護する防災頭巾と、救護用品などを入れるミニバッグになる、幼児向け防災グッズです。日常接しているものが災害時にも役立ち、その時に日常の楽しさと結びつくようにというコンセプトで開発され、災害時のこどもたちの不安をやわらげる効果も期待できます。

本学ブースに立ち寄る来場者は、実際に手に取って感触を確かめ、素材に関する質問をするなど、出展ブースの中でも存在感を放っていました。

梅田先生は今回の出展について、「首都圏などで巨大地震に対する危機感が高まり、防災用具として本件への社会的ニーズは大きい」と分析、また「本件の商品化を核としながら、日常生活と非常時の生活をともに快適にするためのブランド「AVAIN(アヴァイン)」を展開し、新しいライフスタイルとそのためのグッズ発信拠点として、存在感をアピールしていきたい」と、今後の活動を進めることにしています。

また、「第11回　産官学連携推進会議」が同時開催され、産官学を代表する有識者の講演や事例報告、多数の大学・研究機関・企業の研究開発が紹介され、普段私たちが目にすることがない研究・開発の多くが実用化され、日常のくらしの中に入り込んでいることを再認識しました。

泰日工業大学と本学との国際セミナー

本学から「玉虫塗」を贈呈
泰日工業大学のKrisada学長（右）と本学の石川善美副学長（左）

微笑みの国で自信にあふれた笑顔を手に入れた学生たち

佐藤（さとう） 飛鳥（あすか）
経営コミュニケーション学科 准教授

泰日工業大学（TNI）との次の5年間の交流協定を更新して来ました。恒例の研究交流、学生の交流のため、災害（タイは洪水、日本は震災・津波）とその復興への両国の取り組みのシンポジウムに参加、私自身も発表しました。TNIの教職員、学生諸君の温かな対応に、本学の国際交流事業のなかでも一番の好事例であることを実感しました。学生は事前に英訳の相談に来たり、2回に渡るプレゼン練習などにも取り組みました。海外での報告に備え、その過程では再び震災について考えを深め、復興に向けて自分たちができることとすべきことを熟考したようです。フィールドワークではタイ文化の象徴とも言える寺院（涅槃像で有名なワット・ポー）を巡り、タイの方のやさしさや日常生活の根底にある宗教観にも触れました。洪水被害で日系企業が生産調整を余儀なくされた、アユタヤ地区ロッヂャーナ工業団地のデベロッパーにもお話を伺うことができました。世界遺産であるアユタヤ遺跡では歴史の深さを再確認し、口中が痛いほど辛いタイ料理を味わうなど異文化理解を深めました。帰国の際には学生の顔が一段と輝きを増し、海外での発表を通して大きな自信をつけたことが見て取れます。

泰日工業大学でのプレゼンテーションを終えた参加者全10名でタイの挨拶「コップンクラップ（男性）／コップンカー（女性）」

教職員はタイの名門であるチュラロンコーン大学の2学科を訪れ、将来的な教員レベルでの研究交流、交換留学などの可能性について、検討をお願いしてきました。

泰日工業大学との国際セミナーに参加して

岡沼（おかぬま） 美香（みか）
工学研究科 環境情報工学専攻（前期）課程 1年

今回の研修は、私にとって初めての海外旅行でした。そのため不安も少しありましたが、泰日工業大学の学生や研修で関わった皆さんの親切な対応で、非常にいい経験となった5日間でした。国際セミナーでは、タイの学生の語学力の高さや、日本語を勉強する意欲が直に伝わり、感心すると同時に、自分ももっと頑張らなければいけないと痛感させられました。泰日工業大学の学生に街中を案内してもらいましたが、皆優しく親日的でした。また、初めて経験する海外の文化には驚かされましたが、この先もっといろいろな国の文化に触れてみたいと感じさせるような素晴らしいものでした。今回の経験を無駄にせず、今後に活かしていきたいと思います。

TNIの学生たちと満喫した5日間

及川（おいかわ） 和希（かずき）
経営コミュニケーション学科 4年

9月5日から9日まで泰日工業大学（TNI）とのセミナーに参加しました。バンコクの有名な寝釈迦仏ワット・ポーや世界遺産アユタヤ歴史公園などタイの歴史的建造物や仏教文化に触れました。また、中心街“サイアム”へも足を運び、高層ビルなどの近代的な建造物の近くの通りに出店や屋台が混在、東南アジア最大級の都市部を満喫しました。バンコク観光はTNIの学生たち（バディ）が案内。彼らは非常に親切で、気さくで、すぐに打ち解けることができました。言葉が通じないところは、英語や日本語はもちろん、ジェスチャーなどで理解や親交を深めました。シンポジウムを含め、5日間という非常に短い期間のプログラムでしたが、濃密な時間を過ごすことができました。

2012年泰日工業大学サマープログラム参加報告

サマープログラムについて

沼澤（ぬまざわ） 鷹樹（たかき）
建築学科 2年

今回のサマープログラムの一番の収穫は、場所、文化、人など未知なことだけではなく、たくさんの他大学生、泰日工業大学の学生や教職員とのコミュニケーションを通して、自分の価値観や人生観が変化したことです。

私は、これまで東北工業大学でも、建築を学びたいという学生が集まった場所で過ごしてきました。しかし、今回違う分野の学生として、自分自身の考えや価値観がとても浅いものに感じました。この体験を、これから自分がどうなっていきたいかに活かし、大学に限らず、インターンシップや参加型のプログラムには積極的に参加したいと思っています。

タイのサマープログラムを終えて

川名（かわな） 健介（けんすけ）
経営コミュニケーション学科 3年

8月23日、天気は良好。ギラギラ照りつける日差しの中、サマープログラムは始まりました。日本とは違った匂い、風景、人。タイはまるで別世界でした。町並みは日本にどことなく似ていて、都心部はまるで仙台の駅前のようでした。”微笑みの国”とも言われるタイの人はみんなニコニコしていて、アットホームな空気で溢れていました。タイで知り合った友人は一生付き合える存在になりました。毎日が刺激的で、ゾウに乗ったり、水上マーケットに行ったり、タイ語を勉強したり、本当に楽しくてあっという間の12日間でした。タイで学んだことは、私にとって大きな財産になりました。

「教育フォーラムin仙台」開催

北島 博（学校法人東北工業大学 参与）

本学八木山キャンパス９号館のtohtechMEMORIAL HALLで８月２５日（土）、「新学習指導要領実施で変わる高校教育」をテーマにした教育フォーラムが開催されました。主催は東北工業大学・東北工業大学高校。パネリストは宮城県教育委員会高橋仁教育長、宮城教育大学見上一幸学長、本学の沢田康次学長、久力誠高校長の四氏、東北大学の小泉祥一教授がコーディネーターを務めました。

大きな変革時期の高校教育と、変革を仙台城南高校として具体化させようとしている東北工業大学高校。約１６０名の参加者からも熱心な質問が出され、充実した話し合いが繰り広げられました。

地域住民と「健康・体力つくり運動教室」

安全安心生活デザイン学科

ライフデザイン学部安全安心生活デザイン学科「地域安全安心センター」の「いきいき健康・体力つくり運動教室」が９月２７日(木)開講しました。

この教室は、健康作りを通して安全安心生活デザイン学科の学生と、地域の住民との交流を深めようと開催しているものです。今回で６回目の開講。参加者は仙台市八木山・西多賀の両市民センターの協力で「６０歳以上で１時間程度歩ける人」１０人が参加しています。ほとんどが大学の周辺や近くにお住まいの方です。

開講式では教室のサポートを担当する学生と参加者が自己紹介。このあと参加者は学生たちと身近な話題を話しながら、大学にある機材などを使い、血管年齢や腕を伸ばす力、足や指の筋肉の状態などを調べる体力測定を行いました。

教室では、ストレッチ、簡単な筋力トレーニング、ウォーキングなど、安全安心生活デザイン学科の諏訪雅貴准教授・伊藤美由紀准教授の指導を受けながら、健康なくらしを続ける方法、体力つくりなどに諏訪研究室の学生とともに取り組みます。

白石工業高校との「高大接続」開講式

学務課

宮城県白石工業高校と本学が結んでいる「高大接続研究事業」講座の開講式が１０月３日（水）、同高校で行われました。本学今野副学長らが出席、この日受講する１４人の生徒に、「１年間、いろいろな分野内容の講義を受け、自分をしっかり見つめるのに役立てて欲しい」と励ましました。

この講座は、同高校の２年生が対象、今回で５期目の開講です。１０月から翌年９月までの１年間、放課後を中心に月１回程度、計１５回の講義を行い、大学、高校で相互に単位を認めることになっています。

講義は同高校だけでなく、夏や冬の休みには本学キャンパスでも集中講義を行い、大学の授業を体験する機会にもなっています。

生徒は講義のあと、毎回、課題レポートの提出を求められ、評価を受けます。講義の内容はさまざまな分野におよび、生徒は苦労しながらレポートを作成しますが、広い視野を持ってもらうのにも役立っているそうです。

第１回の講義は、「3.11巨大地震の経験に学ぶ防災と減災について」と題し、地震工学が専門の神山眞名誉教授が、地震発生の仕組み、事前の防災準備の重要性、予知の可能性などについて分かりやすく、講義しました。高校の授業は５０分ですが、大学と同じ９０分の授業にも、生徒は一生懸命に耳を傾けていました。

通称「恐竜山」の探索

探そう　つくろう　八木山の新名物プロジェクト

伊藤（いとう） 美由紀（みゆき）（安全安心生活デザイン学科 准教授）

安全安心生活デザイン学科教員や学生が参加、サポートする「探そう　つくろう　八木山の新名物プロジェクト」（八木山市民センター主催）が、7月29日から動き出しました。

プロジェクトは、いま住む八木山についていろいろな角度から学び、若い人からお年寄りまでが世代を超えて八木山の新名物を考え、地域交流を深めるものです。

毎月テーマを設けて地域を歩き、八木山にふさわしい新たな名物を探します。初回のこの日は、市有林の通称「恐竜山」を歩きました。貴重な自然、八木山の原風景の残る丘陵地が住宅地に隣接していることは大きな発見でした。

この活動で生まれた新しい名物は、八木山地区だけでなく他地域にも発信していきます。

仙台学長会議主催市民公開シンポジウムの開催

学務課

9月2日（日）にガーデンシティ仙台（アエル21階）で、仙台学長会議（代表：本学沢田康次学長）主催の市民公開シンポジウムが開催されました。

大震災は、私たちの地域に多くの傷跡を残しましたが、現在復興に向けて自らの力で動きはじめたところです。このシンポジウムでは「いま仙台で学ぶことの意義ーほんとうの生きがいとはー」をテーマに、復興支援に取り組む教員や、ボランティア活動を行った学生、さらに元の生活を取り戻すために苦労している仮設住宅で暮らす被災者などそれぞれの立場の6名のパネラーが、さまざまな報告を行いました。

会場では約130名の市民や学生が熱心に耳を傾け、最後には参加者とパネラーとの間で意見交換が行われ、大変有意義なシンポジウムとなりました。

おめでとう 淡路 卓選手 ロンドン五輪で銀メダル

門馬（もんま） 昌文（まさふみ）（東北工業大学高等学校 教頭）

ロンドン五輪フェンシングフルーレ男子団体で銀メダルを獲得した淡路選手の報告会が、8月23日（木）、東北工業大学高校体育館で行われました。

淡路卓選手は銀メダル獲得と応援への感謝の気持ちを一日でも早く伝えたいと、夏休み明け早々の母校訪問が実現しました。

淡路選手は全校生に拍手で迎えられ、フェンシング部顧問の中里加奈子先生から花束が贈られました。

淡路選手は激励や応援へ感謝の言葉を述べ、4年後のリオデジャネイロ五輪で「個人と団体で2個の金メダル」と決意表明。次の目標へ向けさらに飛躍しようとする先輩に会場からは大きな拍手が上がりました。

淡路卓選手プロフィール

仙台市出身、東北工業大学高校08年3月卒業、ネクサス所属。05年インターハイ準優勝、06年アジア選手権優勝、08年世界ジュニア・カデ選手権優勝、12年ロンドン五輪出場銀メダル

淡路選手の紹介

卒業生中澤正人さん、パラリンピック出場

東北工業大学同窓会

工学部建築学科卒業生（平成19年3月卒業）中澤正人さんが、ロンドン・パラリンピックに車椅子バスケットボールの日本代表として出場し、チームは第9位と健闘しました。

中澤さんは、車椅子バスケットボールチーム宮城MAXに所属し、今年開催の第40回日本車椅子バスケットボール選手権大会では、大会4連覇に貢献し、MVPを受賞しました。10月6日(土) に開催した、東北工業大学同窓会懇親会で、大学関係者、同窓生にパラリンピックの報告を行いました。中澤さんの今後のさらなる活躍が期待されます。

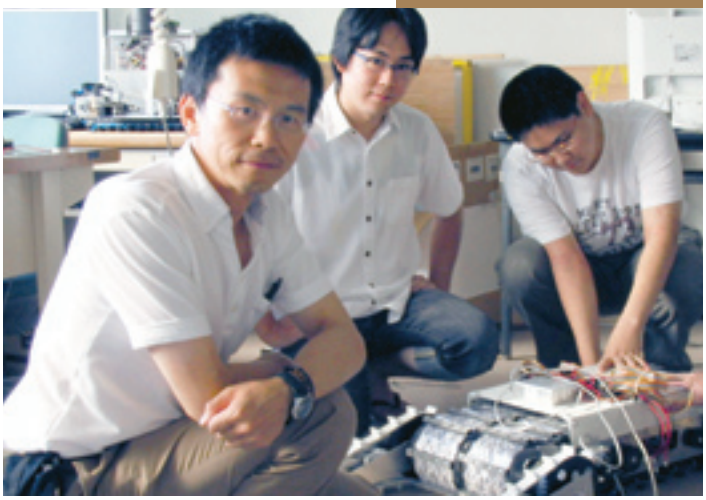
東北工業大学の"今"を伝える広報誌
工大広報 No.267 Autumn 2012
2012年11月20日発行（年4回発行）
発行：東北工業大学
〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35番1号
TEL:022-305-3145（広報室） http://www.tohtech.ac.jp

PROFILE

知能エレクトロニクス学科
藤田（ふじた） 豊己（とよみ） 准教授 を

知能エレクトロニクス学科
伊藤（いとう） 仁（まさし） 講師

が 紹介



体育会系スピリッツ

自律ロボットの研究でご活躍されている藤田豊己先生は、1997年に東北大学で博士号を取得し、米国カリフォルニア大学、ポルトガルのMinho大学での留学を経て、2007年に本学に着任されました。ご専門は不整地移動ロボットと環境認識で、プログラミング演習やシステム制御工学などの講義をご担当されています。また顧問を務められている「電脳からくり部」は、2009年のロボットコンテストで全国3位に輝くなど活発な活動を続けています。そんな藤田先生ですが、実はアイスホッケーでインカレ出場経験もあるスポーツマンです。現在もクラブチームの現役選手として奮闘されており、何事にも前向きに努力する「体育会系スピリッツ」を持つ若者を応援しています。

トピックス

七夕まつりへの参加

荒井（あらい） 俊也（としや）（クリエイティブデザイン学科 教授）

今年度の七夕飾りの製作は「たまごクラブ」という出来立てのデザインサークルが中心になって、クリエイティブデザイン学科の1年生・2年生の合同チームで始まりました。しかし、いつ行っても製作している姿が見られません。やっといるかと思うと、その2、3人の学生はこれからアルバイトで、他の学生も皆アルバイトが忙しいという話でした。数人の学生が入れ替わりながら少しずつ製作は進められたようです。

オープンキャンパス（学内のお披露目日）の前日は参加者一同バタバタと最後の仕上げ、徹夜組もでました。社会参加の機会の自主制作よりもアルバイトが優先される最近の経済事情はとても残念だと思いました。

長町キャンパス4号館建設と3号館改修工事

施設管財課

長町キャンパス４号館建設に８月から着工しております。１階には長町キャンパス事務室と、ライフデザイン学部３学科事務室を1か所にまとめ、談話室に厨房と売店（ユニパル）を配置し、学生サービスの向上を目指しました。また、２階には２００人収容の教室とライフデザイン学研究科の大学院講義室などを配置、談話室部分を吹き抜けにして、明るく開放的な設計になっており、平成２５年１月末の完成予定になっています。

３号館改修は、長町キャンパス事務室の引っ越しを待って、２月から１階部分の改修を行い、経営コミュニケーション学科の教員室、研修室、売店（生協）が入る予定です。

東日本大震災に伴う復旧工事

施設管財課

昨年の東日本大震災と４月の余震で被害を受けた八木山、長町両キャンパスの復旧工事を被災直後から行ってきました。余震の発生を考慮し、５号館外部のブレースと５号館前擁壁の復旧工事については、今年度の夏季休業期間中に行う予定にして準備を進めておりましたが、大きな余震もなく無事に完了させることが出来ました。

まだ、継続中の工事がありますので、今後とも皆さまのご協力をお願いいたします。

工大広報について

「工大広報」は、本学の情報をお伝えするために、年4回発行してお届けしています。学生の皆さんは、学内の右記の場所に、いつでも持ち出して読むことができるように用意してありますので、活用してください。また、「工大広報」は本学のホームページでもご覧になれます。
URL：http://www.tohtech.ac.jp/

■八木山キャンパス… 1号館1階 tohtech LOUNGE
3号館玄関付近／4号館食堂
5号館玄関付近・学生ラウンジ
6号館3階談話室
10号館1階 tohtech FORUM
■長　町キャンパス… 3号館1階学生談話室／学生ホール
■東北工業大学 一番町ロビー

本誌に関するご意見・ご感想をお待ちしています。
〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町 35-1 東北工業大学 広報室
TEL：022-305-3145 FAX：022-305-3146 E-mail：kouhou@tohtech.ac.jp